

多賀城（国特別史跡, 百名城）（宮城県多賀城市市川字城前）

多賀城（たがじょう、たがのき）は、日本の律令時代に、陸奥国に設置された城である。宮城県多賀城市市川字城前ほかに位置し、陸奥国府や鎮守府として機能した。現在、国の特別史跡に指定されている。

概要

奈良盆地を本拠地とする大和朝廷が蝦夷を制圧するため、軍事的拠点として蝦夷との境界となっていた松島丘陵の南東部分である塩釜丘陵上に設置した。創建は724年（神亀元年）、按察使大野東人が築城したとされる。8世紀初めから10世紀半ばまで存続し、その間大きく4回の造営が行われた。第1期は724年 - 762年、第2期は762年 - 780年で762年（天平宝字6年）藤原恵美朝狩が改修してから780年（宝亀11年）伊治公岩麻呂の反乱で焼失するまで、第3期は780年 - 869年で岩麻呂の乱による焼失の復興から869年（貞観11年）の大地震による倒壊まで、第4期は869年 - 10世紀半ばで震災の復興から廃絶までに分けられる。

多賀城創建以前は、郡山遺跡（現在の仙台市太白区）が陸奥国府であったと推定されている。陸奥国府のほか、鎮守府が置かれ、政庁や寺院、食料を貯蔵するための蔵などが置かれ、城柵で囲み櫓で周囲を監視していたと考えられる。多賀城が創建されると、国府が郡山遺跡から移され、黒川以北十群（黒川・賀美・色麻・富田・玉造・志太・長岡・新田・小田・牡鹿）に城柵・官衙とその付属寺院が設置・整備された。これらの設置・整備は律令制支配の強化を図るものであり、多賀城はそれらの拠点を後援する為の根拠地であった。

これにより、平城時代の（狭義の）日本では、平城京を中心に、南に大宰府、北に鎮守府兼陸奥国府の多賀城を建てて一大拠点とした。

多賀城政庁に隣接し、陸奥国内10社を合祀する陸奥総社宮を奉ずる。陸奥国一宮鹽竈神社（塩竈神社）を精神的支柱として、松島湾・千賀ノ浦（塩竈湊）を国府津とする。都人憧憬の地となり、歌枕が数多く存在する。政庁がある丘陵の麓には条坊制による都市（後に多賀国府（たがのこう）と呼ばれる）が築かれ、砂押川の河川交通と奥大道の陸上交通が交差する土地として長く繁栄した。

建武新政期と南北朝時代初期、多賀城には陸奥將軍府が置かれた。奥州將軍府は、多賀城の陥落後、將軍府の中心的武将、伊達行朝の所領である伊達郡の靈山に移転した。

歴史

724年（神亀元年） - 創建。陸奥国府が郡山遺跡（現在の仙台市太白区）より北進移転。なお、文献上の出現は『日本後紀』の839年（承和6年）の記事である。

762年（天平宝字6年） - 藤原朝狩によって修繕されている。

780年（宝亀11年） - 伊治岩麻呂の乱で一時焼失した後に再建された事が書かれている。

802年（延暦21年） - 坂上田村麻呂が蝦夷への討伐を行い、戦線の移動に伴って鎮守府も胆沢城（岩手県奥州市胆沢区）へ移されて、兵站的機能に移ったと考えられる。

869年（貞観11年） - 陸奥国で巨大地震（貞観地震）が起こり、多賀城でも多くの施設が被害を受けた。この後復興していったが10世紀後半頃には維持、管理されなくなり、多賀城は次第に崩壊していった。

11世紀後半の前九年の役や後三年の役においても軍事的拠点として機能し、1097年（承德元年）にも陸奥国府が焼失している。南北朝時代には、後醍醐天皇率いる建武政府において陸奥守に任じられた北畠顕家、父の北畠親房らが義良親王（後村上天皇）を奉じて多賀城へ赴き、多賀城に東北地方、および北関東を支配する東北地方の新政府、陸奥將軍府が誕生した。

近年では、曲水宴遺構が出土し、その編年の再検討も含めて注目されている。現在は特別史跡に指定され、政庁跡や城碑、復元された塀などが残されている。

2006年（平成18年）4月6日 - 日本100名城（7番）に選定された。

Wikipediaによる

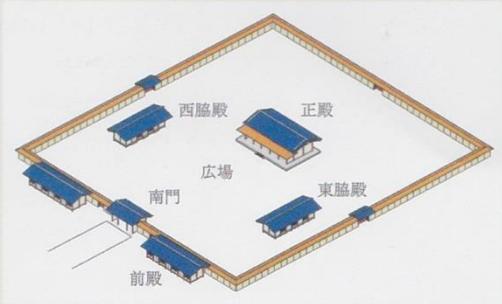


東北の古代史年表

縄文	紀元前 3500年頃	三内丸山で大規模なムラが形成し、定住生活が営まれる。
飛鳥	645年	乙巳の変（大化の改新）。
	658～ 660年	3度にわたり、阿倍比羅夫による北進が行われる。
	710年頃	平城遷都。蝦夷の土地・人民の公有化を目指し、城柵を拠点とした北進が計られる。
奈良	712年	出羽郡と置賜、最上二郡を合わせて出羽国が成立。
	724年	多賀城創建。按察使府、陸奥国府、鎮守府として、10世紀後半まで古代東北行政の中心地となる。
	733年	出羽国の行政・軍事拠点であった出羽柵を秋田に移転。これが後に秋田城と改称する。
	797年	坂上田村麻呂が征夷大將軍となる。
	802年	胆沢城創建。度重なる戦いの末、蝦夷の首長・アテルイが降伏。陸奥国が朝廷の統治下に置かれる。
平安	1051～ 1062年	前九年の役。陸奥国の有力な豪族・安倍氏が滅び、清原氏が覇者となる。
	1083年～ 1087年	後三年の役。奥州藤原氏が登場する。
	1105年	藤原清衡が中尊寺の中興に着手する。

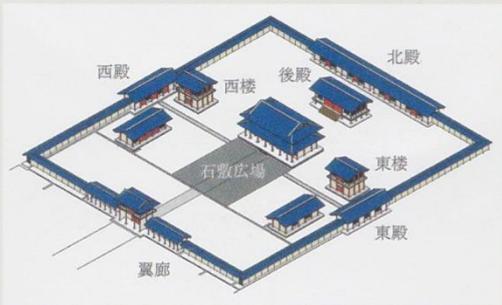


第Ⅰ期



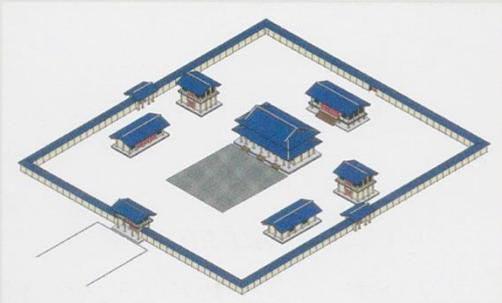
第Ⅰ期政庁 大野東人によって創建された。

第Ⅱ期



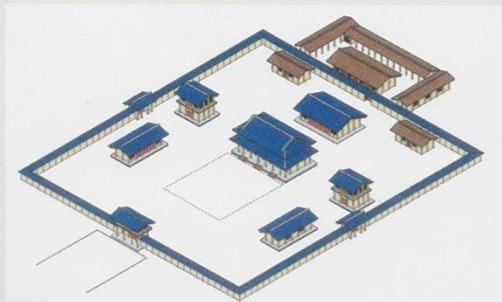
第Ⅱ期政庁 藤原朝篤によって大改修された。全期を通して最も機能性と装飾性を兼ね備えていた。

第Ⅲ期



第Ⅲ期政庁 伊治公咎麻呂の焼き討ち後に再建された。

第Ⅳ期



第Ⅳ期政庁 陸奥国大地震後に復興された。

(図：東北歴史博物館提供)